

病床機能報告 定量基準分析結果 (平成29年度,平成28年度)

埼玉県保健医療部保健医療政策課

平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果【北部】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計				北部圏域				備考
			該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病棟	548人/日	835床	65.7%	6病棟	38人/日	90床	42.5%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病棟	1,858人/日	2,508床	74.1%	1病棟	43人/日	50床	86.9%	
		急性期	343病棟	11,780人/日	14,764床	79.8%	29病棟	899人/日	1,220床	73.7%	
		回復期	262病棟	6,604人/日	9,746床	67.8%	24病棟	587人/日	971床	60.5%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	74病棟	3,103人/日	3,448床	90.0%	2病棟	93人/日	98床	94.7%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	59病棟	2,457人/日	2,839床	86.5%	2病棟	88人/日	109床	81.0%	
	医療療養病床	慢性期	172病棟	6,921人/日	8,067床	85.8%	19病棟	789人/日	923床	85.5%	
介護療養病床	慢性期	9病棟	370人/日	464床	79.8%	0病棟	0人/日	0床			
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病棟	207人/日	342床	60.6%	0病棟	0人/日	0床		
	産科の一般病床	急性期	93病棟	1,488人/日	2,260床	65.8%	10病棟	169人/日	300床	56.5%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	11病棟	183人/日	336床	54.5%	0病棟	0人/日	0床		医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病棟	308人/日	533床	57.9%	1病棟	14人/日	43床	31.8%	
		回復期	2病棟	26人/日	47床	54.4%	1病棟	8人/日	19床	41.9%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	5病棟	76人/日	114床	67.0%	1病棟	2人/日	17床	9.9%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	7病棟	82人/日	131床	62.7%	0病棟	0人/日	0床		

4機能区分	埼玉県計				北部圏域				各医療機関が報告した病床数 (H29病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率		
高度急性期	185病棟	2,797人/日	4,021床	69.6%	7病棟	82人/日	140床	58.4%	420床	327床
急性期	457病棟	13,652人/日	17,671床	77.3%	41病棟	1,083人/日	1,580床	68.6%	2,133床	1,258床
回復期	338病棟	9,733人/日	13,241床	73.5%	27病棟	688人/日	1,088床	63.3%	230床	1,066床
慢性期	247病棟	9,830人/日	11,501床	85.5%	21病棟	877人/日	1,032床	85.0%	1,033床	791床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	35病棟	102人/日	512床	20.0%	4病棟	0人/日	54床		—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	—	—	—	—	123床	—
合計等	1,262病棟	36,114人/日	46,946床	76.9%	100病棟	2,730人/日	3,894床	70.1%	3,939床	3,442床

注：「合計等」欄の許可病床数の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2が突合しない等の事由から、分析対象に含められない病床がある。

	埼玉県	北部
高度急性期	23床	0床
急性期	1,007床	0床
回復期	138床	0床
慢性期	1,251床	20床
休棟・未報告等	1,317床	25床
計	3,736床	45床

(参考) 未分析病床分(各医療機関が報告した病床機能)

(参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果【北部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計			北部圏域			備考
			該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	733床	61.9%	5病棟	82床	42.1%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,852床	79.1%	3病棟	150床	81.5%	
		急性期	292病棟	12,713床	78.1%	24病棟	991床	70.9%	
		回復期	257病棟	9,968床	65.3%	24病棟	1,050床	60.6%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,737床	86.5%	2病棟	98床	93.1%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	2,027床	89.5%	2病棟	79床	88.3%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,837床	88.9%	17病棟	792床	89.8%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	587床	87.2%	0病棟	0床			
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	581床	96.2%	0病棟	0床		
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,550床	67.9%	9病棟	288床	59.3%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	3病棟	116床	79.4%	0病棟	0床	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分	
		急性期	19病棟	723床	46.7%	1病棟	43床		37.1%
		回復期	3病棟	87床	70.5%	1病棟	19床		40.8%
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	97床	63.6%	0病棟	0床	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする	
		慢性期	6病棟	99床	65.3%	0病棟	0床		

4機能ごとに集計

4機能区分	埼玉県計			北部圏域			各医療機関が報告した病床数 (H28病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率	該当病棟数	基準該当病棟数	病床稼働率		
高度急性期 計	180病棟	4,282床	78.5%	8病棟	232床	67.6%	429床	327床
急性期 計	376病棟	15,083床	75.5%	34病棟	1,322床	67.3%	2,226床	1,258床
回復期 計	320病棟	12,792床	69.9%	27病棟	1,167床	63.0%	213床	1,066床
慢性期 計	209病棟	9,550床	88.7%	19病棟	871床	89.7%	912床	791床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	318床	14.4%	4病棟	40床	0.5%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	—	—	116床	—
合計等	1,112病棟	42,025床	76.6%	92病棟	3,632床	70.5%	3,896床	3,442床

注：「合計等」欄の許可病床数（埼玉県計=42025床、北部圏域=3632床）の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床がある（埼玉県計=8347床、北部圏域=264床）。

（参考）各医療機関の報告上の機能

（高度急性期：0床 急性期：4床 回復期：0床 慢性期：110床 未報告：150床）

平成28年度病床機能報告のデータから作成

平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病棟	548人/日	835床	65.7%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病棟	1,858人/日	2,508床	74.1%	
		急性期	343病棟	11,780人/日	14,764床	79.8%	
		回復期	262病棟	6,604人/日	9,746床	67.8%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	74病棟	3,103人/日	3,448床	90.0%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	59病棟	2,457人/日	2,839床	86.5%	
	医療療養病床	慢性期	172病棟	6,921人/日	8,067床	85.8%	
介護療養病床	慢性期	9病棟	370人/日	464床	79.8%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病棟	207人/日	342床	60.6%	
	産科の一般病床	急性期	93病棟	1,488人/日	2,260床	65.8%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病棟等	高度急性期	11病棟	183人/日	336床	54.5%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病棟	308人/日	533床	57.9%	
		回復期	2病棟	26人/日	47床	54.4%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	5病棟	76人/日	114床	67.0%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	7病棟	82人/日	131床	62.7%	

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	各医療機関が報告した病床数 (H29病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
高度急性期 計	185病棟	2,797人/日	4,021床	69.6%	6,365床	5,528床
急性期 計	457病棟	13,652人/日	17,671床	77.3%	24,702床	17,954床
回復期 計	338病棟	9,733人/日	13,241床	73.5%	4,830床	16,717床
慢性期 計	247病棟	9,830人/日	11,501床	85.5%	13,013床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	35病棟	102人/日	512床	20.0%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	1,772床	—
合計等	1,262病棟	36,114人/日	46,946床	76.9%	50,682床	54,210床

注：病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が3,736床ある。

	埼玉県
高度急性期	23床
急性期	1,007床
回復期	138床
慢性期	1,251床
休棟・未報告等	1,317床
計	3,736床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

(参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果 【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病棟	454人/日	733床	61.9%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
	一般病棟・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	71病棟	2,257人/日	2,852床	79.1%	
		急性期	292病棟	9,935人/日	12,713床	78.1%	
		回復期	257病棟	6,511人/日	9,968床	65.3%	
	回復期リハビリ病棟	回復期	60病棟	2,367人/日	2,737床	86.5%	
	特殊疾患病棟・障害者施設等	慢性期	44病棟	1,814人/日	2,027床	89.5%	
	医療療養病床	慢性期	147病棟	6,081人/日	6,837床	88.9%	
介護療養病床	慢性期	12病棟	512人/日	587床	87.2%		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病棟	559人/日	581床	96.2%	
	産科の一般病床	急性期	61病棟	1,052人/日	1,550床	67.9%	
小児	小児入院管理料・小児科の 一般病棟等	高度急性期	3病棟	92人/日	116床	79.4%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病棟	337人/日	723床	46.7%	
		回復期	3病棟	61人/日	87床	70.5%	
緩和ケア	緩和ケア病棟	急性期	4病棟	62人/日	97床	63.6%	放射線治療の実施がある病棟を急性期、ない病棟を慢性期とする
		慢性期	6病棟	65人/日	99床	65.3%	

4機能区分	該当病棟数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	平成28年度病床機能報告において各医療機関が報告した病床数	地域医療構想における2025年の必要病床数
高度急性期 計	180病棟	3,362人/日	4,282床	78.5%	6,707床	5,528床
急性期 計	376病棟	11,386人/日	15,083床	75.5%	24,118床	17,954床
回復期 計	320病棟	8,939人/日	12,792床	69.9%	4,437床	16,717床
慢性期 計	209病棟	8,472人/日	9,550床	88.7%	12,965床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病棟の病床	27病棟	46人/日	318床	14.4%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	2,145床	—
合計等	1,112病棟	32,205人/日	42,025床	76.6%	50,372床	54,210床

注：表の42,025床の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2が突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が8,347床ある。

	埼玉県
高度急性期	115床
急性期	2,497床
回復期	775床
慢性期	2,692床
休棟・未報告等	2,268床
計	8,347床

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

埼玉県病床機能報告定量基準分析の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分						
	主に成人			周産期	小児	緩和ケア	
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU				MFICU NICU GCU	PICU 小児入院医療 管理料1	
急性期					産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の一般病棟7:1	緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟					小児入院医療管理料4,5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所	
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等						緩和ケア病棟 (放射線治療なし)

切り分け

具体的な機能に応じて区分線を引く

機能区分基準の考え方

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。
- ② 区分線 1 のしきい値は、救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。
- ③ 区分線 2 のしきい値は、一般病棟 7 : 1 の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。
- ④ 区分線 1・2 を設定した結果、高度急性期・急性期・回復期の 1 日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。

区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。

○救命救急やICU等において、特に多く提供されている医療

- A : 【手術】全身麻酔下手術
- B : 【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C : 【がん】悪性腫瘍手術
- D : 【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E : 【脳卒中】脳血管内手術
- F : 【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術
- G : 【救急】救急搬送診療料
- H : 【救急】救急医療に係る諸項目（☆）
- I : 【救急】重症患者への対応に係る諸項目（☆）
- J : 【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目（☆）

☆…病床機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

区分線1で高度急性期に分類される病棟の割合（平成29年度報告）

区分線1で高度急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合（選択都道府県）					
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	救命・ICU・SCU	一般病棟7:1(※)	一般病棟7:1以外(※)	有床診の一般病床(※)	地域包括ケア病棟	
手術	A	全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	42.5%	1.9%	0.5%	2.2%	0.0%	
	B	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	21.8%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
がん	C	悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	25.3%	2.7%	0.5%	0.0%	0.0%	
脳卒中	D	超急性期脳卒中加算	あり	あり	16.1%	0.8%	0.0%	0.0%	算定不可	
	E	脳血管内手術	あり	あり	21.8%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%	
心血管疾患	F	経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	25.3%	1.6%	1.0%	0.0%	0.0%	
救急	G	救急搬送診療料	あり	あり	11.5%	0.8%	0.0%	0.0%	算定不可	
	H	救急医療に係る諸項目（下記の合計）		0.2回/月・床以上	8回/月以上	64.4%	3.0%	1.0%	5.4%	0.0%
		・救命のための気管内挿管	・カウンターショック							
I	重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計）		0.2回/月・床以上	8回/月以上	48.3%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
	・観血的肺動脈圧測定	・頭蓋内圧持続測定(3時間超)								
全身管理	J	全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計）		8.0回/月・床以上	320回/月以上	43.7%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%
		・観血的動脈圧測定(1時間超)	・胸腔穿刺							
上記A～Jのうち1つ以上を満たす					89.7%	14.2%	4.2%	7.6%	0.0%	

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

92.5%	16.8%	4.0%	6.4%	0.0%
-------	-------	------	------	------

（参考）平成28年度該当病床割合

急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○一般病棟7：1において多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

- P：【重症度、医療・看護必要度】
基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数等を指標に用い、しきい値を設定。

区分線2で急性期に分類される病棟の割合（平成29年度報告）

区分線2で急性期に分類する要件			しきい値		該当する病棟の割合（選択都道府県）				
			稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合	一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 10:1 (※)	その他 一般病棟 (※)	有床診の 一般病床 (※)	地域包括 ケア病棟
手術	K	手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	8.5%	5.7%	2.9%	19.6%	0.0%
	L	胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上	18.0%	12.3%	1.4%	1.1%	0.0%
がん	M	放射線治療（レセプト枚数）	0.1枚/月・床以上	4枚/月以上	9.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	N	化学療法（日数）	1.0日/月・床以上	40日/月以上	18.3%	2.5%	1.4%	2.2%	0.0%
救急	O	予定外の救急医療入院の人数	10人/月・床以上	400人/月以上	17.8%	12.3%	4.3%	0.0%	0.0%
重症度等	P	一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	25%以上	25%以上	65.3%	42.6%	0.0%	0.0%	4.5%
上記K～Pのうち1つ以上を満たす					83.3%	58.2%	11.4%	27.2%	4.5%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

76.4%	49.1%	16.4%	25.6%	7.7%
-------	-------	-------	-------	------

（参考）平成28年度該当病床割合